

INDEX

3 拓南製作所の安全衛生大会

4 TOPICS

県産品奨励月間「街頭キャンペーン」／喜友名氏(製鐵)に県経営者協会「若手優秀社員表彰」／知念氏(製作所)に県土木建築部「施設建築課長表彰」／當山・小渡・島袋3氏に沖縄商工会議所「永年勤続従業員表彰」／製作所与那城出張所が平安座島ハーリー大会に参加 etc.

6 連載「拓南余話」⑨

【赤茜】首里出身の新聞記者で俳人の石野朝季が、晩夏の西空に広がる夕焼けの美しさを「あかなあ」と表現した

拓伸会会報(隔月発行)

〒900-0025

沖縄県那覇市壺川3の2の4 [拓南ビル3F]

拓南本社内『たくしんNEWS』編集委員会

TEL.098-831-8228 FAX.098-832-0586

自分を守り、仲間を守り 家族を守るためのゼロ災推進活動

拓南製鐵・拓南商事・協力企業合同安全衛生大会



成底正太氏をリーダーに安全スローガン唱和



拓南製鐵・拓南商事・協力企業合同の第29回安全衛生大会が8月14日、きむたかホールで開かれた。各社役員、拓伸会会員企業役員など約400人が参加した。古波津昇会長は訓辞の中で、「健康があつて安全が全うできる。指差し呼称をはじめ基本行動をしっかりと行つてほしい」と強調し、ゼロ災1000日の達成を呼びかけた。製鐵、商事における安全衛生活動の概要報告の後、10部署(チーム)がそれぞれ、安全活動と衛生活動の取り組みを発表した。

大会は、被災者への黙とう
で始まり、拓南製鐵の松井太
郎副社長が社訓唱和を行つた。
続いて、八木実社長が開会
のあいさつをした。



松井太郎副社長
(製鐵)

「猛暑が続いているが、本日まで、熱中症にかかった報告をまだ受けていない。それは、日頃からの、熱中症に対する皆さんの意識の高さ、健康チェックなどの成果だ。一方で、小さなケガや事故は多発傾向にある。指差し呼称をはじめ基本的な動作を遵守することが大切だ。自分のた



八木実社長
(製鐵)

め、ご家族のため、みんなのために指差し呼称を徹底し、心をひとつにして、安全第一、健康第一でゼロ災1000日をめざす大会としたい」その後、拓南商事、拓南製鐵の安全衛生担当者がそれぞれ、安全衛生活動の概要を報告した。

指差し呼称で「強化週間」(商事)

拓南商事安全衛生員会 與那嶺史矩氏

安全活動について、2025年度の物損事故は、前年度比2件増えて17件だった。作業別では「運搬」が2件増えて8件で、一番多い。労働災害の発生件数は6件で、2件増えた。

前大会(昨年8月20日)以降の災害発生内容は、作業頻度が少ないコンベアベルト交換作業でウエイトが足下に落下(休業災害)、通常作業に加え応援作業(ピッキング作業)を実施したところ本人の身体状態と応援作業時の作業姿勢の影響もありヘルニア発症(休業災害)、やぐら製作時に約2.5メートルの高さから足を踏み外して墜落(休業災害)、荷台から降りた際に着地がうまくいかず左胸を打つように打撲(不休災害)だ。



與那嶺史矩氏
(商事)



比嘉正毅氏
(製鐵)



山川文誠氏
(製鐵)

安全衛生統括室で態勢強化(製鐵)

拓南製鐵安全衛生統括室次長 山川文誠氏
環境室次長 比嘉正毅氏

安全活動について、25年度の災害発生状況は休業0件、不休業9件(挟まれ災害3件、転倒災害2件、熱中症2件、その他2件)だった。わが社に多い転倒・挟まれ災害に対し、防止対策の水平展開が十分だった。安全意識を継続できる教育が不足していると感じられた。

今年度は、基本方針を「ゼロ災365日達成に向けた指差し呼称の実行、危険予知行動を徹底する」とし、安全衛生統括室を立ち上げて態勢を強化した。安全重点取り組みとして、指差し呼称の徹底、危険予知行動(KYT)・ヒヤリハットキガカリの吸い上げ、パトロール実施後の



きむたかホール(うるま市勝連平安座)で開催



松田智喜氏
(製鐵石灰工場)



玉城莊多氏
(製鐵製鋼班)



成底正太氏
(製鐵圧延班)



比嘉恵一朗氏
(商事営業本部)



山下航平氏
(商事製造本部)

《1頁より》
改善、災害時訓練を掲げ、実施している。しかし、9 件の災害(右手中指挟まれ・頭部裂傷・人差し指骨折・左足打撲・目に粉塵混入・左手打撲・左足首靱帯損傷・右手の人差し指裂傷・左手裂傷)がすでに発生している。

一方、衛生活動について。定期健康診断の有所見率は県平均より高く、ここ数年、横ばい状態が続いている。ワースト3は、血中脂質、肝機能、血糖だ。

りて、前年度の衛生重点取り組みを踏襲し、生活習慣の改善、健康経営の取り組みも継続しながら、インフルエンザ

ゼロ災に向け10部署が報告

大会は、10部署による安全衛生活動に移った。

各部署とも、持ち時間の中で、安全活動と衛生活動を具体的に発表した。その報告の中で、各部署が重点を置いていたと思われるポイントは

ワクチン予防接種を会社で受けられるようにするなど
の新機軸も打ち出していく。

下記の通り。

○拓南商事製造本部

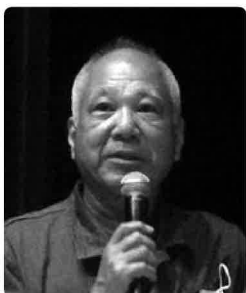
山下航平氏が、25年度の労働災害4件のうち、1件の重篤災害(コンベアベルト交換作業中、作業者の足にウエイトが落下して両足指一部欠損)について、発生状況、原因(落下防止対策の不備、作業手順の未整備、KY・RAの不足、作業計画・管理の不足)とその対策について報告し、「今回の災害を個人の注意不足で終わらせてはいけない」と強調した。

○拓南商事営業本部

比嘉恵一朗氏は、ヒヤリハ



川満暉氏
(製鐵営業部・営業管理部)



外間守氏
(商事運送班)



伊佐信治氏
(小湾運送)



徳永博文氏
(泉産業)



知念敏彦氏
(鉄鋼処理産業)



我謝佑太氏
(製鐵品質管理室)



神村太陽氏
(製鐵加工センター)



比嘉章雄氏
(製鐵技術部)

ット提出件数について103件(25年度)で、60・8%も減少し、紙媒体から電子化したことによる影響ではないかとみて、提出しやすい環境づくりを進めていると報告。また、26年度は、物損事故、スクラップ落下が年間実績から見て高いペースで発生しており、早急な対策が必要だと述べた。

○拓南製鐵製造部圧延班

成底正太氏が「熱中症について」をテーマに、発生状況(梅雨明け時の暑熱順化中にすべて発生)と事例説明(症状・原因)、新アイテムであるアイスベストなどの対策グッズや応急処置セットの紹介、熱中症ゼロに向けた活動(始業前体調チェック等)について報告した。

○拓南製鐵製造部製鋼班

玉城莊多氏が、熱中症対策を踏まえた「安全への意識向上」をテーマに、班による工場のパトロール実施(その結果、貴重なコメントを入手)、ヒヤリハットの吸い上げ強化、勉強会での安全教育(朝食の重要性と熱中症)実施など25年度の取り組みを紹介し、今年度も継続していると報告した。

○拓南製鐵製造部石灰工場

松田智喜氏が、最悪の事態を想定した後で安全目標を唱和するなど作業前KYミーティングの活動状況、「石灰工場安全の手引き」などに基づいた安全基本行動の具体的な訓練、整理整頓などその他の安全活動、熱中症対策について報告した。



古波津昇会長



平田要副社長
(商事)

○鉄鋼処理産業・泉産業・小湾運送・商事運送班
鉄鋼処理産業の知念敏彦氏、泉産業の徳永博文氏、小湾運送の伊佐信治氏は「熱中症対策」について主に報告した。空調服の選択、常備している経口補水液のチェック、クーラー不具合の点検など具体例を挙げた。拓南商事運送班の外間守氏は、昨年度のヒヤリハット抽出件数が45件で、53%余減少しており、「ささいなヒヤリハットを見逃さずに報告・共有し、向上を図る」と述べた。

置の方法)と実技(応急処置の手順と方法・冷やす部位の確認・緊急連絡先の確認)、アクエリアスゼロなどの設置、塩分チャージの設置、エアコンの点検などについて報告した。

○拓南製鐵技術部

比嘉章雄氏が、熱中症対策(アクエリアス等を冷蔵庫に常備、応急処置キットの設備と点検、クーラーベスト・フルハネス対応空調服の紹介等)、不気味災害報告ならびにその対策、ヒヤリハットなどにAIを活用する今後の取り組み、ゼロ災状況を報告した。

○拓南製鐵加工センター

神村太陽氏が、熱中症対

安全活動にスピード感を



10部署の発表後、健康講話が行われた。
野菜ソムリエ上級プロで、拓南本社OGの徳元佳代子氏が「事故と病気を防ぐ体は食事で作る」をテーマに講演した。

徳元氏は「脳のコンディショニングが悪いと、判断力や集中力などの低下が起き、ヒヤリハットや事故につながる。脳

という安全装置がしっかり働くためには朝食がとても大事だ。朝食をしっかりと食べてほしい。安全は健康があってこそ」と強調した。

その後、拓南商事の平田要副社長が大会講評を行った。「12の発表すべてで熱中症についての報告があった。しかし、細部まで踏み込めていない観があった。そこで、皆が一体となつて、処置の方法など細かなところまで熱中症対策を見直してほしい。ところで、この1カ月内にグループ企業で2件の休業災害(転落)が起きた。しかし、その情報が速やかに伝わっているだろうか。情報が早く伝われば、そのぶん早く各社が対策をとれる。そのために、

策とゼロ災365日に向けた活動計画について発表した。熱中症対策として休憩時間における施設の最適化、休憩時間の増加(午前1回・午後1回をそれぞれ2回に増加)、不気味災害を振り返る勉強会の実施などの取り組みを報告した。

○拓南製鐵品質管理室

我謝佑太氏が、部内での安全訓練・勉強会引張試験機での緊急停止方法や危険ポイントの教育など、緊急事態対応訓練(薬剤が床にこぼれたり肌などに付着した場合を想定)、安全対策の強化、熱中症対策などについて報告した。



講師の徳元佳代子氏(構内)

安全活動にスピード感が必要だ。安全に対する文化を拓伸会がこれから形成していく中で、まずは、ゼロ災365日を1丸となつて達成しよう」

続いて、拓伸会の古波津昇会長が訓辞をした。
古波津会長はまず、「各発、



危険の芽 摘んで安全 咲く笑顔

第42回安全衛生大会 拓南製作所

拓南製作所は第42回安全衛生大会を8月6日、吉の浦会館で開いた。台風13号が沖縄本島に接近する中、全社員(協力企業含む)と拓伸会会員企業幹部約200人が出席した。役員や発表者など登壇者すべてが「指差し呼称の実践こそが事故を未然に防ぐ最大の力だ」と強調し、参加者全員でゼロ災害1000日の達成を誓い合った。

失敗を恐れずに挑戦を

大会は、労働災害で亡くなられた方々へご冥福を祈る黙とうで始まった。続いて、宮國正幸常務が開会のあいさつをした。

「昨日(8月5日)時点で、当社のゼロ災害日数は309日になった。3つの事業所において皆さんが日々、安全第一を実践し、生産活動に取り組んでくださったことに心から感謝を申し上げます。309日は、当たり前で最も大切な行動を全員で真摯に行動された確かな成果だ。しかし、私たちのゴールはここで

はない。ゼロ災害1000日の達成だ。慣れや油断こそが最大の敵だ。この大会を、私たちの日常の作業手順や安全に対する意識を見つめ直し、危険の芽を事前に摘み取るきっかけにしよう」

続いて、奥平勉社長があいさつした。

「当社は今年より、方針管理活動を新たにスタートさせた。安全衛生活動についても重点管理目標を設定し、それを達成すべく日々、取り組んでいる。『見える化』することで皆が同じ方向に向いて活動し、その結果、倍増した力を発揮でき、最終的には大きな成果を得られると確信している。また、今期の年度方針を『変化を恐れぬ挑戦で新市場を切り拓く』としている。そこには、『まず行動する。行動しながら改善する』

指差し呼称の実践を

安全管理者の西原誠部長による安全衛生活動実績報告に移った。

西原部長はまず、安全活動の日々の取り組みを紹介し、「拓伸会統一の安全基本行動カードを全員に携帯させ、制定から約4年を経て、安全基本行動が浸透しつつある」と述べた。

そして、年度別災害発生状況、熱中症対策などを報告する中で、今年度の取り組みについて述べた。

「令和8年度の安全重点項目は、指差し呼称の実践だ。『危険の芽 摘んで安全 咲く笑顔』を年間スローガンに掲げ、指差し呼称推進員の教育を強化している。全社員が実践・定着できるように、毎月各部署ごとに15回、安全教育を行っている。また、ヒヤリハットキガカリの吸い上

という意味も含まれている。頭の中で考えるだけでは成果は出ない。安全衛生活動においても、対策について効果があるか判断した場合、迷わず行動に移してほしい。失敗してもかまわない。失敗したら改善すればいい。PDCAを回すことで、間違いなく良い結果が生まれる。失敗を恐れず、どんどん挑戦してほしい」

また、衛生活動について、「令和7年度の定期健康診断の有所見率が83%で、前年度より3ポイント増加し、全国ワースト2の沖縄県平均70・7%より約13ポイントも上回っている」と報告。「主治医や産業医へ自ら相談し、再検査や治療、運動・食生活の見直しなど、早めの対応をとるよう」に指導している」と述べた。

さらに、健康経営優良法人の認定、コミュニケーション促進に向けた取り組みなどについても言及し、「ゼロ災害1000日を目指し、安全衛生活動に取り組む」と締めくくった。



西原誠部長
(安全管理者)



奥平勉社長



宮國正幸常務



上里優太氏 (鐵構)



宮城泰雅氏 (防錆)



末吉隆作氏 (棒線)

3事業所が事例報告

大会は、3事業所の安全衛生活動報告(体験・事故事例等)に移った。

各事業所を代表して3人の発表者が報告した。

○鐵構事業所

鐵構部鐵構課課員・上里優太氏は、安全衛生活動報告の中で、昨年7年9月30日に10番銅線工場でC型鋼のバリ取り作業中に発生した休業災害について詳説した。「進入防止対策を講じていなか

○防錆事業所

ったのが要因で、対策として、払い出しラインへ進入できないように固定柵を設置した」「スクラップバケツに向かうために設備を横断する必要があり、それが災害につながった。屋内の作業エリア内にスクラップバケツを移設した」と発表した。ヒヤリハットキガカリの吸い上げなど再発防止に向けた取り組みも紹介した。



川上哲史社長
(商事)



福本将希常務
(商事)

いと思わずに、周りの人たちに教え、共有していこうとすることが大切だ。平田副社長のさきほどの講評ともつながるところだ」と説いた。

最後に、「健康があって安全が全うできる。指差し呼称をはじめ基本行動をしつかり行つてほしい。ゼロ災害1000日を拓伸会各企業全員の目標として掲げている。それを達成できる環境づくりにご尽力を」と会場に呼びかけた。

拓南商事の福本将希常務が大会宣言を行った。

「第29回となる拓南製鐵・拓南商事・協力企業合同安全衛生大会に際し、基本理念である自分のため、みんなのための健康・安全第一に拓伸会行動を取り入れ、行動規範を深く理解し、社員自ら実践する企業風土を構築する。目標であるゼロ災害1000日達成に向け、自分を守り、仲間を守り、家族を守るためにゼロ災害推進活動を実施し続ける

ことをここに宣言する」

製造部製造課職長・宮城泰雅氏は、安全衛生活動報告の中で、昨年7月23日に防錆事業所めつき場横で発生した不慮災害について詳説した。

「クレーンで吊った際に荷物がバランスを崩して倒れ、被災者の右足に当たった。被災者は、安全靴と甲プロテクターを着用していたが、当たった所がそれらの境目だった。診察で、骨が無事であることを確認した」と発生状況を報告。「指差し呼称による安全距離の確認、甲プロテクターの正しい付け方の周知など

*「トピックス」欄に載る名称、人物の肩書などは、記事を史料として活用するため、原則として当日のものとします。

TOPICS

地場産業を振興する一番の近道

県産品奨励月間

街頭キャンペーン

7月

広げよう 世界へ羽ばたく 県産品。

2026年県産品奨励月間が7月1日から始まり、沖縄県工業連合会をはじめ県内19団体で構成する県産品奨励月間実行委員会が初日の同日、県庁前県民広場で街頭キャンペーンを開催した。

猛暑の中、会場には約250人が参加し、拓伸会各社からも役員が駆けつけ、「県産品を使おう」と一緒に呼びかけた。

席上、同実行委員会の古波津昇会長は、主催者あいさつ

で「県経済の持続的な発展を図るためには、県民一人ひとりが県産品を積極的に利用し、地元企業や店舗を応援することが大切だ」と述べた上で、次のように強調した。

「地場産業を振興する一番の近道は、県産品の愛用だ。県産品の愛用は、地域経済の活性化、地域の雇用の確保と創出、そして、沖縄から資金を流出させないことにつながる。今まで以上に全県民が一体となって取り組む必要がある」

同実行委員会は同日、街頭



主催者あいさつに立つ古波津会長 (下)「琉球新報」7月2日付

県産品の魅力 関係者PR 県産品の魅力は、県産品の愛用を通じて、県民一人ひとりが県産品を積極的に利用し、地元企業や店舗を応援することが大切だ。県産品の愛用は、地域経済の活性化、地域の雇用の確保と創出、そして、沖縄から資金を流出させないことにつながる。今まで以上に全県民が一体となって取り組む必要がある。



「県産品を使おう」と一緒にアピール

セレモニーに先立ち、開南小学校の「学校給食における児童生徒を囲んでの昼食会」にも参加し、県産品使用の食材や食器を子どもたちと一緒に確認し合った。

製作所と知念課長



(前列左から4人目)奥平勉社長、(後列左から4人目)知念陽介課長

そろって表彰

沖縄県土木建築部

7月

沖縄県土木建築部は7月28日、令和8年度沖縄県土木建築部優良建設業者等表彰を県庁で行い、拓南製作所を表彰した。また、席上、同社の知念陽介課長が施設建築課長表彰を受け、会社・従業員そろっての表彰となった。

知念課長は、表彰式後、次のように感想を述べた。

「このように表彰していただき、大変うれしく思います。現場に携わった皆さんの協力があってこそその表彰だと感じています。これからも初心を忘れず、安全で良いものづくりに取り組んでまいります」

《3頁より》 対策を講じた」と述べた。熱中症対策についても発表した。

棒鋼線材事業所

棒鋼部加工管理課課員・末吉隆作氏は、安全衛生活動報告の中でまず、安全活動で取り組んでいる3つのテーマ(ヒヤリハットの報告・リスクアセスメントの実施・指差し呼称の教育と実践)について報告した。また、棒鋼部の社内クレーン特別教育(2日間)とその効果について詳説した。衛生活動については、熱中症対策について報告。排気装置の取り付け、できる限



講師の兼本愛美氏

りの高温対策、個人個人の対策などについて紹介した。

3事業所による安全衛生活動報告の後、安全衛生講話が行われた。

テーマは「今日からでき

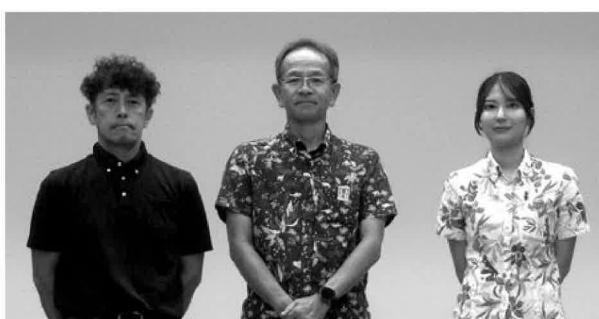
宮城氏、川満氏が標語金賞

大会は、令和8年度安全衛生標語(応募数321件)の表彰に移った。

「安全標語」の金賞は、宮城舞花氏の『大丈夫』その思い込みが事故を呼ぶ 指差し呼称で守ろう ゼロ災害現場に輝いた。(銀賞・末吉常高氏、銅賞・杉山学氏、奨励賞・西川勇輝氏)

一方、「衛生標語」の金賞は、川満隆雄氏の『声かけてきつく仲間の小さな変化 みんなで気配り 明るい職場』が受賞した。(銀賞・下門健一氏、銅賞・山城貴子氏、奨励賞・仲座直氏)

続いて、鐵構事業所鐵構部の比嘉正主任が大会宣言を行った。「年間標語『危険の芽 摘んで安全 咲く笑顔』



(左から)川満隆雄氏、奥平社長、宮城舞花氏

る！職場での熱中症対策、命を守るポイント」。講師は、前大会に引き続き、ハートライフ病院クリティカルケア認定看護師看護師長・兼本愛美氏が担当した。



勢理客耕司専務



大会宣言をする比嘉正氏

を合言葉に、一致協力して災害ゼロの明るい職場づくりにまい進することを誓う」と力強く宣言した。

その後、防錆事業所製造部職長の城間明職長をリーダーに、全参加者で指差し唱和が行われた。

閉会のあいさつは勢理客耕司専務が行った。

勢理客専務は、定期健康診

断の有所見率を下げる個々の努力を会場に呼びかけた上で、安全活動について「ヒヤリハットを他人事とせず、自分事ととらえてほしい。それは、ゼロ災害1000日につながっていく。今年度の安全衛生活動も頑張ろう」と締めくくった。

司会は、管理部管理課の山城貴子課長が務めた。



城間明氏(左から3人目)による指差し唱和

喜友名修矢氏(製鐵)に表彰状

若手優秀社員表彰 沖縄県経営者協会

沖縄県経営者協会の第69回定時会員総会が6月19日、ロワジールホテル那覇「天妃



祝福に駆けつけた拓伸会幹部に囲まれて



表彰状を受け取る喜友名氏

の間」で開かれた。席上、2026年度若手優秀社員表彰式が行われ、宮城茂会長が計44人に表彰状を授与した。拓伸会関係者からは、拓南製鐵の喜友名修矢氏が表彰された。

今回の表彰対象者は、今年4月1日時点で24歳以下の正社員(3年以上勤務)で、勤務姿勢などが会員企業から評価され、推薦を受けた人物。喜友名氏は式典後、次のように感想を述べた。

當山、小渡、島袋3氏(製鐵)を表彰

永年勤続優良従業員 沖縄商工会議所

沖縄商工会議所は6月30日、令和8年度永年勤続優良従業員表彰式をNBC日本



祝福にかけつけた拓南製鐵の幹部たちと。表彰状を手に(左から)小渡氏、島袋氏、當山氏

ブライダルセンターで行った。

拓南製鐵からは當山孝雄氏、小渡啓登氏、島袋優吾氏が表彰された。いずれも勤続13年11カ月。

表彰式後、3氏とも「このたびは永年勤続表彰をいただき、ありがとうございます」と感謝の言葉を述べた上で、當山氏は「周囲の皆様のサポートのおかげです」、小渡氏は「暑くなってきたので熱中症に気をつけて頑張ります」、島袋氏は「人生の半分働いてきたことに驚きです」とコメントした。

続報

拓伸会関係者は11人と1チーム

優良従業員表彰 県工業連合会

6月2日に開催予定だった沖縄県工業連合会(古波津昇会長)の「優良従業員表彰式」が台風襲来で延期され、拓伸会関係の被表彰者11人と1チームは後日、グループ各社で実施した式典にのぞんだ。弊紙は、被表彰者の氏名を7月号で速報。今号では、続報として、各社表彰式のもとと各コメントを紹介する。

盛り上げる、この想いを胸に、鉄のように強くしなやかに対応できるよう精進いたします」

「今後も成長するために、学ぶことを止めずに変化を怖れず頑張つて参ります」

◎優良従業員(全41社63人) 拓南本社

島袋 緑氏

「おかげさまで優良従業員表彰をいただくことができ光栄です。共に働く多くの仲間感謝いたします。創業者をはじめ先人らがつくりあげてきた『県産品の愛用で郷土を

「これまで多くの方々からご指導、ご支援を頂き、様々な経験を積ませて頂いたことに感謝申し上げます。今後とも会社のさらなる発展に貢献できるよう、努めてまいりますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします」

「このたびは表彰を頂き、大変嬉しく思います。今後とも会社に貢献できる様に頑張つてまいります。」

「このたびは表彰いただき、ありがとうございます。これからも会社の発展に貢献できるよう努めてまいります」

「このたびは表彰いただきありがとうございます。これからもチーム一丸となって頑張ります」

◎優秀技能者賞(全11社) 拓南製鐵

仲間大悟氏

「このたびは表彰いただき、ありがとうございます。モノづくりにおいて卓越した技能」

「このたびは表彰いただき、ありがとうございます。今後も創意工夫を重ね、会社の発展に貢献できるよう努めてまいります」

◎創意工夫功労者賞(全3人2グループ) 拓南製鐵

中村博文氏

「このたびは表彰いただき、ありがとうございます。今後も創意工夫を重ね、会社の発展に貢献できるよう努めてまいります」

6月



(表彰状を手に左から)上原康志氏、島袋緑氏



(表彰状を手に左から)長谷川雅斗氏、中村博文氏、仲間大悟氏、入田勉氏



(表彰状を手に左から)幸喜盛朗氏(ELV班改善活動チーム)、呉屋雅貴氏、数田真也氏、仲間良一氏



(表彰状を手に左から)赤嶺一也氏、知念陽介氏



平安座島ハーリー大会に参加

拓南製作所 与那城出張所

6月

平安座島の恒例行事であるハーリー大会が6月21日、平安座漁港内で行われた。今回も、拓南製作所チームが参加した。そこで、鐵構部与那城出張所の山野要所長に寄稿してもらった。

全員が同じ目標に向かって

鐵構部与那城出張所所長代理 山野要氏

今年も伝統行事である『平安座ハーリー大会』に参加しました。

当日は晴天、最高気温31度、降水確率0%でした。練習もなく、不安もありましたが、実際に参加してみると、チーム全員で息を合わせ、漕ぐことの大切さを実感しました。

の少ない社員同士で交流が深まり、とても有意義な時間を過ごすことができました。



初期対応が肝心

黒島 善茂

操業は、下注法へ戻して続けた。

その頃(1971年)ニクソンショック(1ドル＝360円の固定相場崩壊)によって、輸出企業は急激な円高対策に迫られた。

産業構造の高度化が進む一方で、大気汚染光化学スモッグなど公害が深刻化、政府は環境庁を発足。企業への公害対策を義務化した。

復帰前とはいえ、会社はこうした状況を勘案して自発的に取り組み、バッグフィルター式の炉体集塵

機を設置することになった。

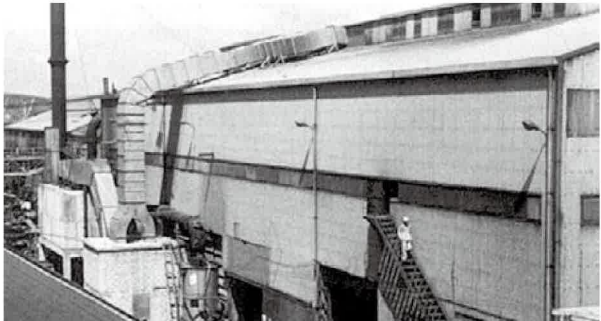
問題は設置する場所だが、事務所と隣接地フェンス間にデッドスペースがあり、そこを安易に決めていたのだが、これが大きな誤りであった。

民家が近いので、集塵機の音がうるさいと苦情がきた。

間の悪いことに、数年前に工業地帯から準工業地帯へ地目変更されており、基準値も低くなっている。

直ちにブロワーの防音と防音壁を作ると同時に、工場の窓と越屋根をすべて塞いで防止対策を講じた。

ところが、工場内は、熱



(上) 集塵装置と製鋼工場
(下) 製鋼工場の建屋集塵装置(両写真とも壺川工場)

気と煤煙で作業環境が極端に悪化した。最優先で建屋集塵機を製作することになり、総風量を決め、ダストの捕捉は、湿式スクラバー式とラヒシリングでいけると計画した。

めため、工場内の環境が改善されて安堵したのも束の間、半年を過ぎた頃からラヒシリングに付着したダストがスムーズに除去できなくなり、頓挫してしまった。

専門メーカーに発注し、72年に完成した。



会社正門付近の電柱に貼られたピラ(壺川工場)

かける結果となり、自責の念に駆られた。

その年、公害に関する法律が制定された。沖縄も同時に国家試験が行われ、スタッフ3名は、大気、騒音、水質に割り当て、上間氏と2人は全資格を受験した。

自己採点の結果、上間氏は合格確実であったが、筆者は合格のボーダーライン上であり、責任上一つでも落とすわけにいかず、薄氷を踏む思いでいたが合格でき、ホッとした。

(拓伸会 元名誉会長)

拓南余話 29

編集後記

お隣の「あじまあ」掲示板が報じている通り、拓南本社では2件、8月8日に「結婚」がありました。てっきり偶然だと思いきや、校正時に「えっ、知らなかったの?」という顔をされてしまいました。令和8年8月8日は、平成8年以来30年ぶりとなる「8」が3つ並ぶ末広がり(8)のとても縁起の良い大安・吉日だったとか。全国で、たくさんのカップルが婚姻届を提出した入籍日になったそうですね。いつまでもお幸せに。(鈴木)